

東京国際空港（羽田空港）の新しい滑走路（D滑走路）  
～ 埋立/棧橋接続部 鋼管矢板井筒護岸の上部構造が概成 ～

記者発表資料

国土交通省は、我が国航空ネットワークの拠点空港として極めて重要な位置を占める東京国際空港（羽田空港）において、4本目の滑走路となる『D滑走路建設工事』を平成22年10月の滑走路の供用開始をめざし、24時間365日の昼夜連続施工により最速で工事を進めています。

このうち、埋立・棧橋ハイブリッド構造の根幹となる埋立/棧橋接続部（以下、「接続部」という）においては、平成21年9月3日に、鋼管矢板井筒護岸の上部構造（基礎構造含む）が概成しました。

鋼管矢板井筒護岸の基礎となる鋼管矢板打設が平成20年8月に完了した後、鋼管矢板井筒内部の海水を排水（ドライアップ）し、頂版コンクリートの施工を進め、上部構造であるスリット柱の建込、PC桁の架設を行いました。その後、棧橋側の海面下2.5mより上の鋼管矢板を切断する工事を進め、平成21年9月3日に切断がすべて完了しました。

今後は、接続部護岸近傍の棧橋部ジャケット据付後、棧橋部と接続する「渡り桁」及び埋立部と棧橋部の異なる変位を吸収する「伸縮装置」の工事を進めます。

【参考】接続部は、全長（約430m）に渡って滑走路直角方向に打設される2列の鋼管矢板（外壁部：φ1,600）、それと直角に滑走路平行方向に打設される25列の鋼管矢板（隔壁部：φ1,600）、及び鋼管矢板頂部に構築される頂版コンクリートで一体化した「鋼管矢板井筒護岸」を基本構造とし、その上部に航空機荷重を支え、かつ消波機能を有するスリット柱φ1,200（スリット間隔600mm）とPC桁を用いた「上部構造」、さらに棧橋部との間を「渡り桁」及び「伸縮装置」で接続する構造としており、埋立部と棧橋部ジャケットという異なる構造を一体的に結びつける重要な構造物となります。

平成21年 9月11日（金）

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所

同時発表記者クラブ

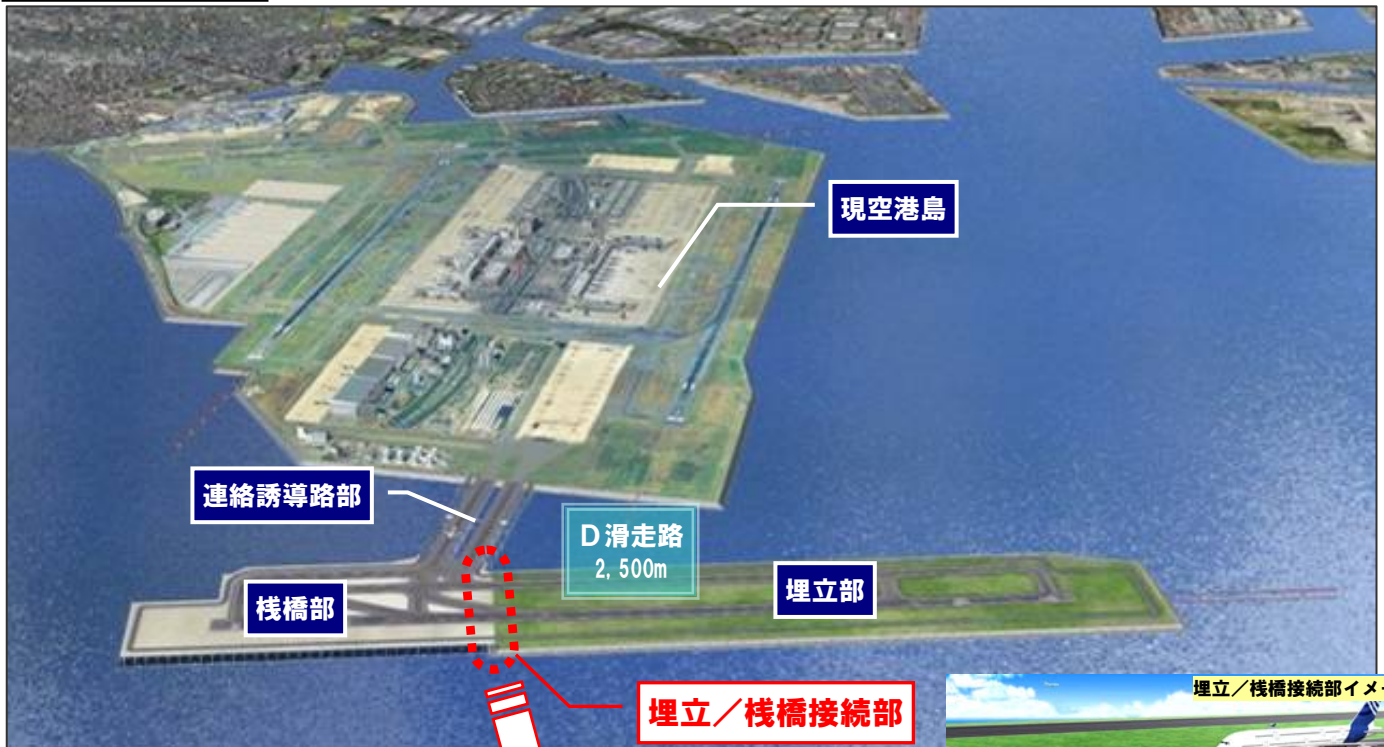
竹芝記者クラブ 横浜海事記者クラブ 神奈川建設記者会  
都庁記者クラブ 千葉県政記者クラブ 東京航空記者会

問い合わせ先

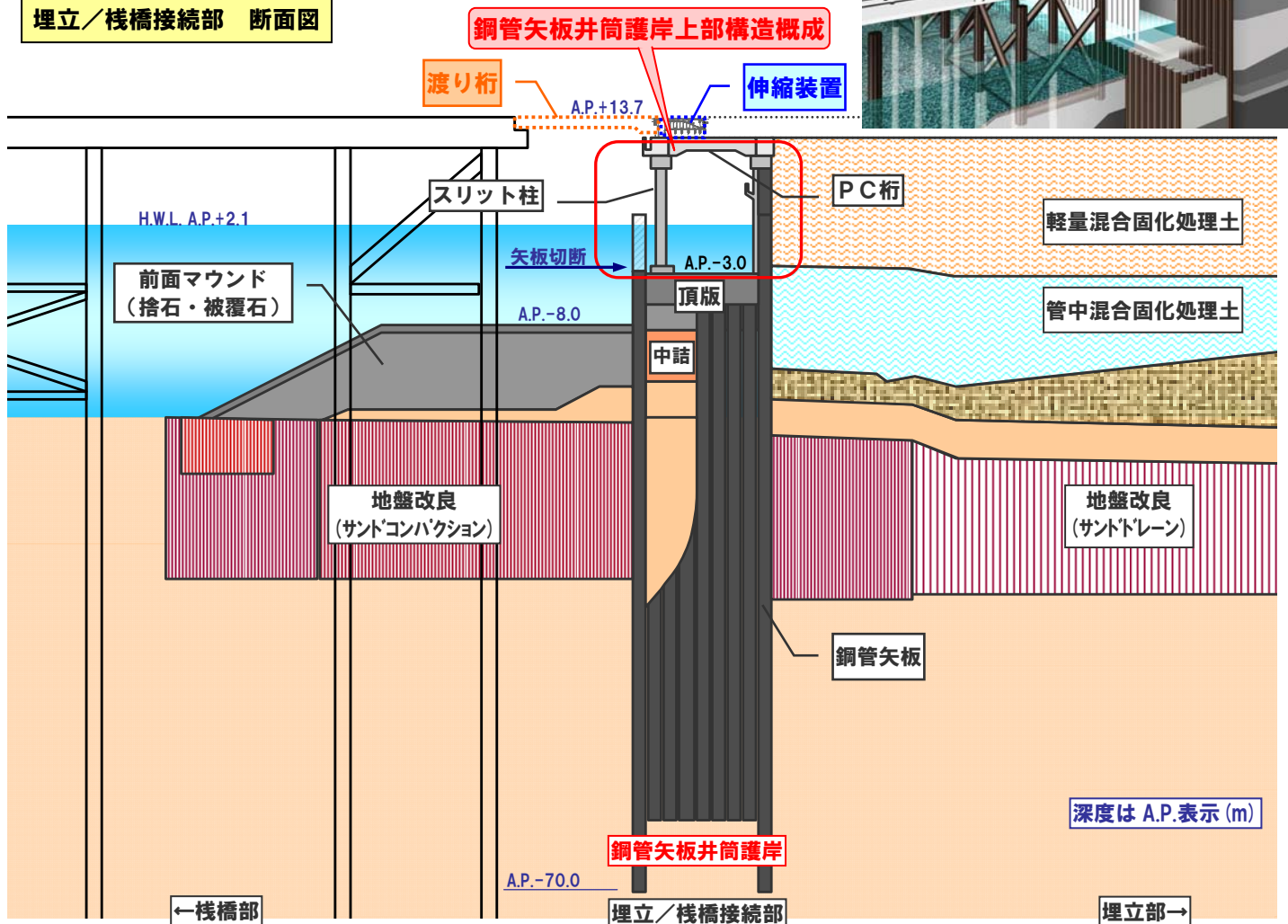
国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所 D滑走路プロジェクト推進室 押田・篠原・村上  
住所 東京都大田区羽田空港3-3-7メンテナンスセンターアネックス5階  
電話 03-5756-6580  
HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/>

# ■埋立／棧橋接続部 概要

東京国際空港全体図



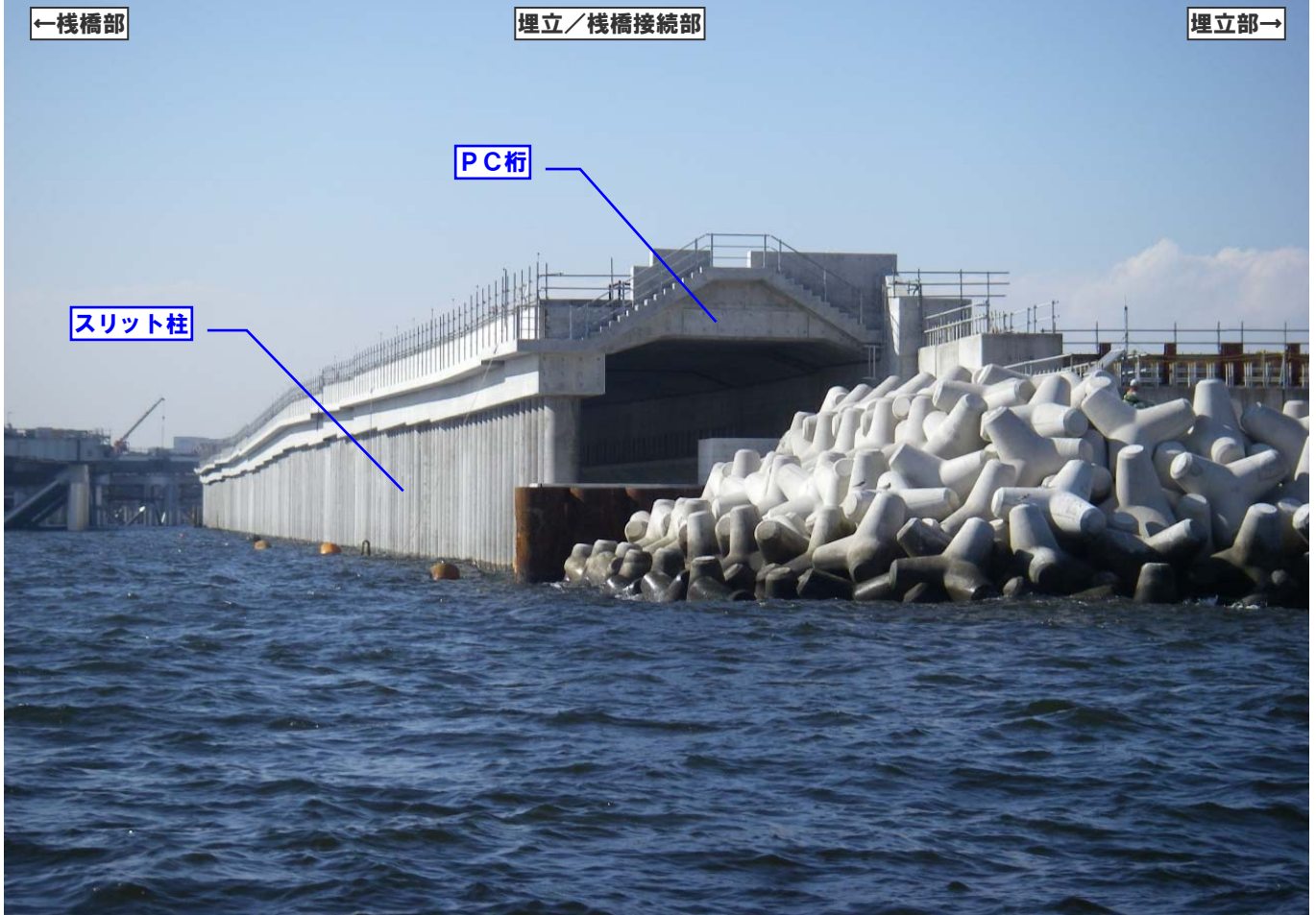
埋立／棧橋接続部 断面図





# ■埋立／棧橋接続部 施工状況

鋼管矢板井筒護岸上部構造



鋼管矢板井筒護岸内部 排水時



鋼管矢板井筒護岸内部 鋼管矢板切断時



埋立／棧橋接続部 (棧橋部側から撮影)

